(トップページ:http://mylibrary.maeda1.jp/)
(五大石油会社の業績比較:http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html)
(石油:http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html)
マイライブラリー:0495

(注)本稿は 2020 年 2 月 11 日から 29 日まで 14 回にわたり「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2020.3.1
前田　高行

業績が大幅に落ち込んだ五大国際石油企業:2019年度業績速報シリーズ

目次　　頁

I. 各社の業績概要
1. ExxonMobil の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績　3
2. Shell の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績　4
3. BP の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績　4
4. Total の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績　5
5. Chevron の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績　6

II. 2019年の業績比較
1.売上高　7
2. 利益　7
3. 上流部門/下流部門利益　7
4. 売上高利益率　8
5. 設備投資額　8
6. 石油及び天然ガス生産量
(1)石油生産量　9
(2)天然ガス生産量　9
(3)石油・天然ガス合計生産量(石油換算)　9

III. 2018年と2019年の5社業績比較
1. 売上高　9
2. 損益
(1)総合損益　10
(2)上流部門と下流部門の損益比較　11
3. 設備投資　11

III. 8カ年(2012-2019年)業績推移の比較
１. 売上高 12
２. 利益 12
３. 売上高利益率 13
４. 設備投資 14
５. 石油及び天然ガス生産量
(1)石油生産量 14
(2)天然ガス生産量 15
（3）石油・天然ガス合計生産量（石油換算） 16

国際石油企業(International Oil Companies, IOCs)の２０１９年第４四半期(10-12 月)及び年間(1-12 月)の決算が発表された。本稿では ExxonMobil(米)、Shell(英蘭), BP(英), Total(仏)及び Chevron(米)の主要 5 社を取り上げ、各社の売上高、利益、投資額、石油・ガス生産量等を概観し、さらに 5 社の業績比較を行う。

I. 各社の業績概要（末尾表 1-D-4-20 参照）

（業績の足を引っ張った下流部門！）

1．ExxonMobil の 2019 年第 4 四半期（10-12 月）及び通年(1-12 月)の業績

＊同社ホームページ:
https://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earns-143-billion-2019-57-billion-fourth-quarter

(1)売上高

ExxonMobil の 2019 年 10-12 月の売上高は 672 億ドルであり、また通年売上高は 2,649 億ドルであった。前年同期比ではそれぞれ-6.6%及び-8.7%の減収である。減収の要因は対応する期間の原油及び製品価格が下落したためであり、例えば代表的な指標油種である北海 Brent 原油の 2018 年の平均価格は 71.31 ドル/バレルであり、これに対して 2019 年のそれは 64.21 ドルであり、また第 4 四半期の平均価格も 2018 年の 68.81 ドルに対して 2019 年は 63.08 ドルに下落している[1]。後述する通り ExxonMobil の 2019 年原油・天然ガスの生産量は前年に比べ原油が横ばい、天然ガスは減産となり石油換算の合計生産量は 3.1%増であった。このことから減収の主たる要因が価格の下落であったことが解る。

(2)利益

10-12 月期及び通年の利益はそれぞれ 57 億ドル及び 143 億ドルであり、前年同期と比較すると 10-12 月期は 5%減、通年では 31%の減益であった。通年利益のうち上流部門の利益は 2018 年の 141 億ドルに対して 2019 年は 144 億ドルとわずかながら増加している。一方、下流部門の利益は 2017 年の 60 億ドルに対して 2019 年は 23 億ドルと大幅に減少している。（注、最終損益額には石油化学部門その他の損益が合算されているため、部門別の上流・下流部門の損益合計額とは一致しない。）

上流部門と下流部門を比較すると、上流部門は原油価格の下落にも関わらず利益がわずかながら増加したのは増産の結果であろう。これに対して下流部門は利益が3分の１近くに激減しており、末端の製品価格が崩れたためと考えられる。

(3)売上高利益率

通年ベースの売上高利益率は 5.4%であり、前年の 7.2%より低下している。

(4)設備・探鉱投資

2019 年の年間の設備・探鉱投資額は 311 億ドルであり、2018 年の 259 億ドルに比べ 20%増加している。

(5)石油・ガス生産量

昨年の ExxonMobil の石油生産量は日量平均 2,386 千バレル(以下 B/D)であり、前年(2018 年)の 2,266 千 B/D に比べ 5.3%増加している。一方、天然ガスは日量平均 9,394 百万立法フィート(以下 mmcfd)であり前年とほぼ横ばいである。

(売上、利益で5社のトップ！)

2. Shell の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績

＊同社ホームページ:

https://www.shell.com/investors/financial-reporting/quarterly-results/2019/q4-2019.html

(1)売上高

Shell の 2019 年 10-12 月の売上高は 851 億ドル、通年売上高は 3,521 億ドルであった。前年同期比ではそれぞれ 19%及び 11%の減収であった。

(2)利益

10-12 月期及び通年の利益はそれぞれ 10 億ドル及び 158 億ドルであり、前年同期と比較すると 10-12 月期は6分の1、通年では 7 割の大幅減益であった。上流部門の 10-12 月期は前年度 16 億ドルの黒字から 8 億ドルの赤字に転落した。これに対して同期間の下流部門は 10 億ドルの黒字を確保している。(注、最終損益額には石油化学部門その他の損益が合算されているため、部門別の上流・下流部門の損益合計額とは一致しない。)

(3)売上高利益率

通年ベースの売上高利益率は 4.5%であり前年の 5.9%より下がっている。

(4)設備・探鉱投資

2019 年の年間の設備・探鉱投資額は 230 億ドルであり前年とおなじ水準であった。

(5)石油・ガス生産量

昨年の Shell の石油生産量は日量平均 1,876 千 B/D であり、前年(2018 年)より 4%増加している。天然ガスは日量平均 10,377mmcfd であり前年比 4%減である。

石油と天然ガスの合計生産量は石油換算で 3,665 千 B/D となり、前年とほとんど変わらない。

(売り上げに比べ見劣りする収益力)

3. BP の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績

＊同社ホームページ:

https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/fourth-quarter-2019-results.html

(1)売上高

BP の 2019 年 10-12 月の売上高は 711 億ドルであり、また通年売上高は 2,784 億ドルであった。前年同期比では 10-12 月期は 6%、通年ベースでは 7%の減収である。

(2)利益

10-12 月期の利益は前年同期の 7.7 億ドルから 2 千万ドルに激減した。通年ベースの黒字も前年度の 94 億ドルから 40 億ドルに半減している。部門別利益では上流部門は通年で 112 億ドルの利益を計上、下流部門は 64 億ドルの黒字であった。(注、最終損益額には石油化学部門その他の損益が合算されているため、部門別の上流・下流部門の損益合計額とは一致しない。)

(3)売上高利益率

通年ベースの売上高利益率は 1.4%であり、前年の 3.1%に比べ悪化している。

(4)設備・探鉱投資

2019 年の年間の設備・探鉱投資額は 154 億ドルであり、2017 年に比べ 8%減少している。

(5)石油・ガス生産量

昨年の BP の石油生産量は日量平均 1,288 千 B/D であり、前年(2018 年)に比べ 2%増加している。天然ガスも日量平均 7,823mmcfd で前年より 6%増加している。

石油と天然ガスの合計生産量は石油換算で 2,637 千 B/D となり、2018 年比では 4%増である。

4. Total の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績

＊同社ホームページ:

https://www.total.com/en/media/news/press-releases/fourth-quarter-and-full-year-2019-results

(1)売上高

Total の 2019 年 10-12 月の売上高は 493 億ドルであり、また通年売上高は 2,003 億ドルであった。前年同期比では 10-12 月期は 6%、通年ベースでは 4%の減収である。

(2)利益

10-12 月期は 26 億ドル、通年では 113 億ドルの利益であり、2018 年に比べ四半期ベースでは 2.3 倍の増益、通年では横ばいであった。通年利益のうち上流部門の利益は 75 億ドルで前年に比し 12%減、下流部門は 30 億ドルの利益で前年を 11%下回った。(注、最終損益額には石油化学部門その他の損益が合算されているため、部門別の上流・下流部門の損益合計額とは一致しない。)

(3)売上高利益率

通年ベースの売上高利益率は 5.6%であり、前年の 5.5%とほぼ変わらない。

(4)設備・探鉱投資

2019 年の年間の設備・探鉱投資額は 174 億ドルであり、これは 2018 年を 12%上回っている。

(5)石油・ガス生産量

昨年の Total の石油生産量は日量平均 1,672 千 B/D であり、前年(2018 年)比 7%増であった。天然ガスは前年比 12%増の日量平均 7,364mmcfd である。

石油と天然ガスの合計生産量は石油換算で 3,014 千 B/D となり、2018 年比 9%増である。

5. Chevron の 2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)の業績

＊同社ホームページ:

https://www.chevron.com/stories/chevron-announces-fourth-quarter-2019-results

(1)売上高

Chevron の 2019 年 10-12 月の売上高は 364 億ドルであり、また通年売上高は 1,465 億ドルであった。前年同期比ではそれぞれ 14%及び 12%の減収である。

(2)利益

10-12 月期は 66 億ドルの赤字、通年では 29 億ドルの黒字を確保した。10-12 月期の大幅減益の理由は、アパラチアのシェール権益、Kitmat LNG 設備等総額 104 億ドルの資産を除却したためである。この結果、通年の利益も 2018 年の 148 億ドルの利益が今期は 29 億ドルに激減している。通年利益のうち上流部門は前期比 8 割減の 26 億ドルとなり、下流部門も前年比 35%減の 25 億ドルにとどまった。(注、最終損益額には石油化学部門その他の損益が合算されているため、部門別の上流・下流部門の損益合計額とは一致しない。)

(3)売上高利益率

通年ベースの売上高利益率は、2%であり、前年は5社で最高の 8.9%であったが、今回は BP に次ぐ低い水準にとどまっている。

(4)設備・探鉱投資

2019 年の年間の設備・探鉱投資額は 210 億ドルであり、これは 2018 年比で 4.4%増である。

(5)石油・ガス生産量

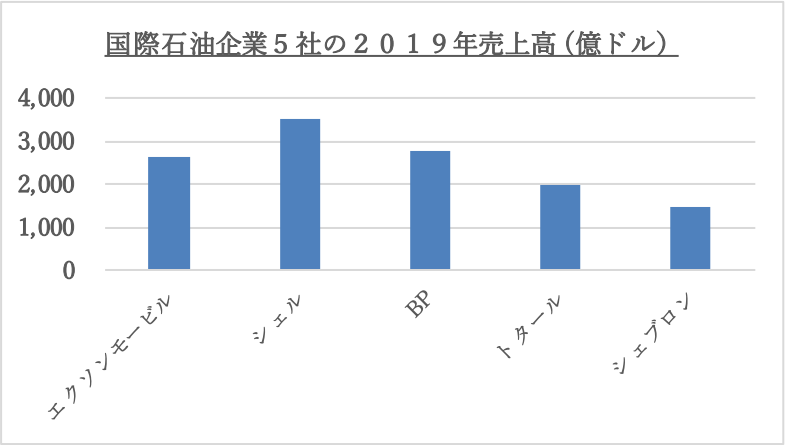
昨年の Chevron の石油生産量は日量平均 1,865 千 B/D であり、前年より 4.7%増加した。天然ガスは日量平均 7,157mmcfd で前年より 4%増加している。

石油と天然ガスの合計生産量は石油換算で 3,058 千 B/D となり、2018 年比では 4.4%増である。

II. 2019年の業績比較

(売上トップの Shell は Chevron の2倍以上！)

1.売上高

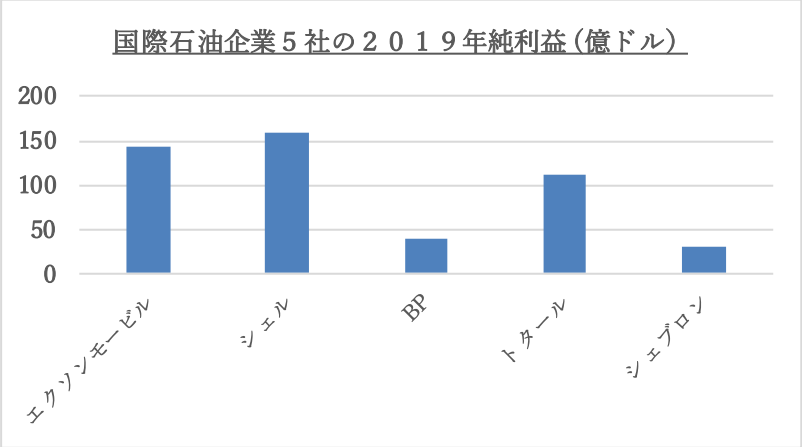


ここでは ExxonMobil, Shell, BP, Total 及び Chevron5社の2019年の売上高を比較する。5社の中で売上高が最も大きいのは Shell の3，521億ドルであり、これに続くのが BP2，784億ドル、ExxonMobil2，649億ドルである。BP、ExxonMobil の売上高は Shell の4分の3にとどまっている。なお後述する8カ年(2012-2019年)業績推移で詳しく触れるが、2012年及び2015年の売上高は ExxonMobil がトップであったが、それ以外は Shell がトップである。

Total、Chevron の売上高はそれぞれ2，003億ドル及び1，465億ドルで、Chevron はトップの Shell の売上高の4割にとどまっている。

（Shell は利益もトップ、BP、Chevron は Shell の5分の１！）

2. 利益

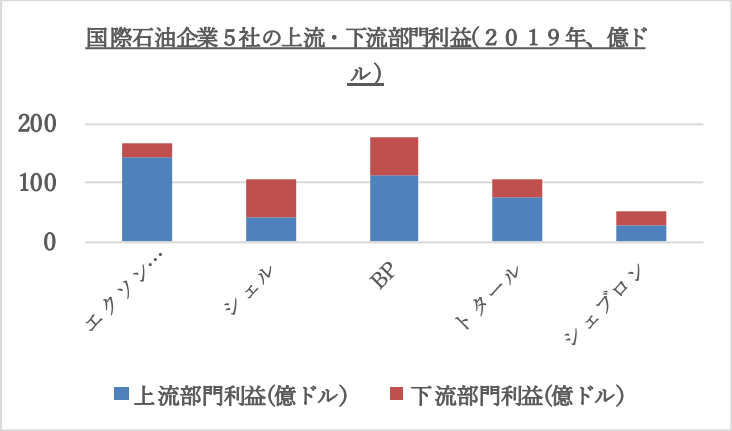


Shell が5社の中で利益額が最大であり(158億ドル)、これに次ぐのが ExxonMobil143億ドル、Total 113億ドルで、この三社が利益100億ドルを超えている。BP 及び Chevron の利益はそれぞれ40億ドル及び29億ドルにとどまっており、トップの Shell の2割前後と5社の中で際立って低い水準にとどまっている。

3. 上流部門/下流部門利益

(注)上記2の利益には上流部門及び下流部門(石油精製販売部門)の他化学部門の利益が含まれている場合があり本項の合計額とは必ずしも一致しない。)

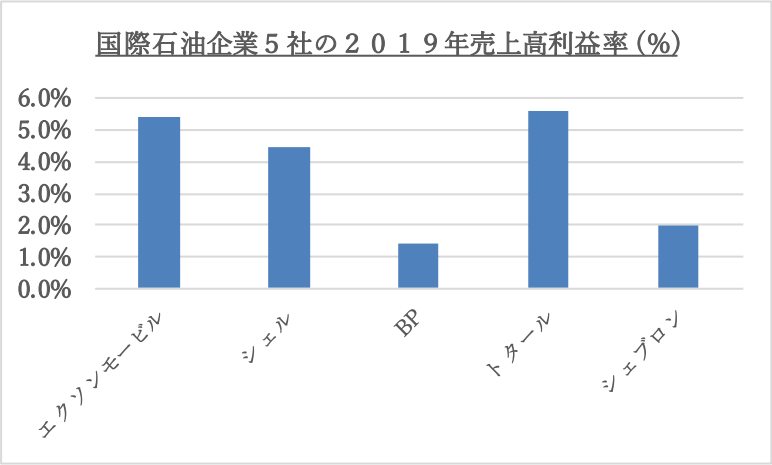
上流部門の利益は各社によって大きな格差があり、最も多い ExxonMobil が144億ドル、BP が112億ドルで両社だけが100億ドルを超えている。これに続くのは Total(75億ドル)、Shell(42億ドル)であり、Chevron は5社中最も少ない26億ドルにとどまっている。



下流部門は各社の格差が比較的小さい。利益が最も多いのは BP と Shell の64億ドル及び63億ドルである。その他3社は30億ドル前後である。上流部門は保有する鉱区の優劣により大きな開きが生まれるのに対し、下流部門は各社の精製設備の競争力に大差が無く、市場における販売力の違いに損益格差があるためと考えられる。

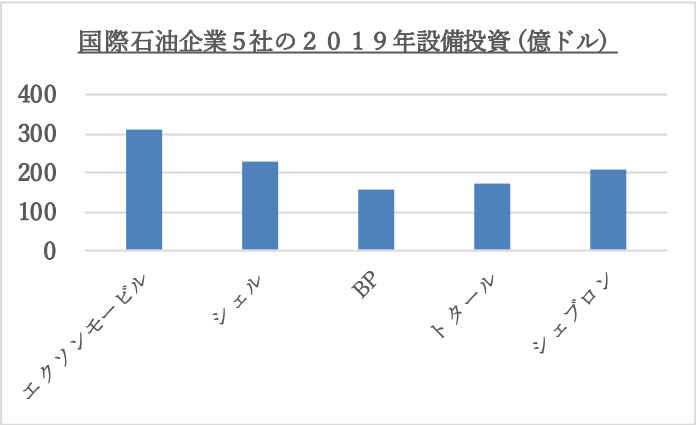
各社の上流部門と下流部門の利益比率を見ると、ExxonMobil は上流部門が86%を占め、下流部門は14%にとどまっている。Total、BP も ExxonMobil 同様上流部門の利益が下流部門を上回っている。これに対して Chevron は両部門がほぼ均衡しており、Shell は5社の中では唯一下流部門の利益が上流部門を上回っている。

4. 売上高利益率



売上高と利益の比率である売上高利益率を見ると、Total が5.6%と最も高く、ExxonMobil が5.4%、Shell ４．５%と続いている。Shell は売上高及び利益が5社の中では最も大きいが、売上高利益率は5社中の3番目にとどまっている。Chevron の利益率は2%で、BP は5社の中で最も低い1．4%である。

5. 設備投資額



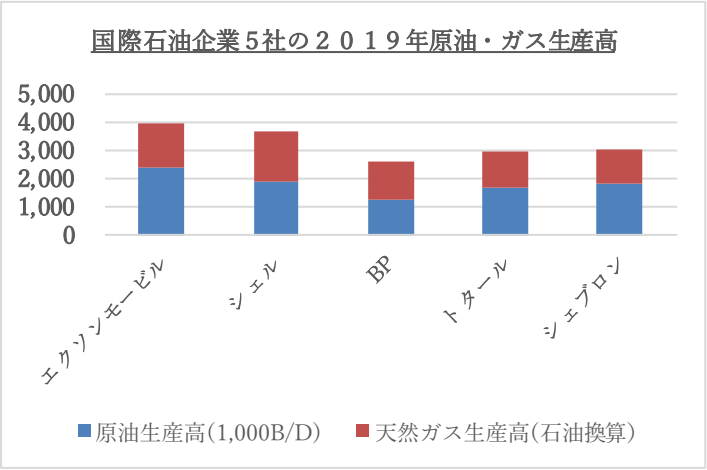
２０１９年の５社の設備投資額は ExxonMobil が311億ドルと最も多く続いて Shell が230億ドル、シェブロン210億ドル、Total174億ドルである。BP は5社の中で最も少なくエクソンモービルの半分の154億ドルである。

(石油と天然ガスを合わせ400万 B/D に迫る ExxonMobil)

6. 石油及び天然ガス生産量

(1)石油生産量

昨年の石油生産量が最も多かったのはExxonMobilの2，386千B/Dであり、5社の中でただ一社2百万 B/D を超えている。ExxonMobil に次いで生産量が多いのは Shell(1，876千 B/D)、第3位は Chevron(1，865千 B/D)で、両社の生産量は ExxonMobil の8割である。Total は ExxonMobil の7割の1，672千 B/D であり、BP は最も少ない1，288千 B/D、ExxonMobil の5割強にとどまっている。



(2)天然ガス生産量

天然ガスの生産量が最も多いのは Shell の日産104億立方フィートで石油に換算すると1，789千 B/D であった。Shell のみが100億立方フィートを超えており、2位は ExxonMobil の94億立方フィート(石油換算1，566千 B/D)である。3位以下は BP(同1，349千 B/D)、Total(1，342千 B/D)、Chevron(1，193千 B/D)と続いている。

(3)石油・天然ガス合計生産量

石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil であり石油換算で3，952千 B/D である。2位は Shell の3，665千 B/D、その他の3社は Chevron(3，058千 B/D)、Total(3，014千 B/D)、BP(2，637千 B/D)である。ExxonMobil の生産量を100とした場合、他の4社は Shell93、Chevron77、Total76、BP は67である。

各社の石油と天然ガスの比率を見ると、Chevron は石油61%、天然ガス39%であり5社の中では石油の比率が最も高い。その他4社の石油:天然ガスの比率はそれぞれ、ExxonMobil(石油60%:天然ガス40%)、Total(石油55%:天然ガス45%)、Shell(石油51%:天然ガス49%)、BP(石油49%:天然ガス51%)である。BP は5社の中では唯一天然ガスの生産が石油を上回っている。

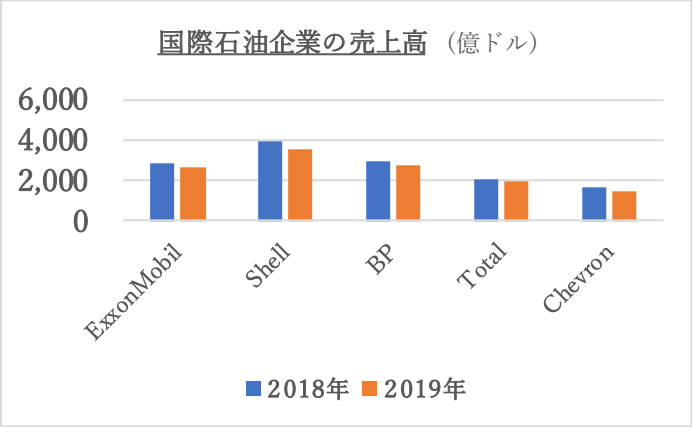
III. 2018年と2019年の5社業績比較

2018年と2019年の年間平均原油価格は Brent 原油でそれぞれ1バレル当たり71．31ドル及び64．21ドルであり、10%下落している。この結果各社の売上高もほぼこれに比例して減少しており、利益については売り上げの減少を上回る減益決算となっている。特に Chevron はシェール鉱区の売却など上流部門の資産整理を行ったため、売上高利益率は5社中のトップから4位に急落しており、上流部門の利益は最下位に落ちている。

(Shell 売上トップ、BP2位、ExxonMobil3位が定着！)

1. 売上高

2018年及び2019年の5社の売上順位は変更がなく、トップは Shell である。これに次いで BP と ExxonMobil がほぼ拮抗しており、4位 Total、5位 Chevron である。5社のうち売上高の減少率が最も高かったのは Chevron 及び Shell の2社でともに11%台の減収率であった。減収率が最も低かったのは Total の▲4．3%である。



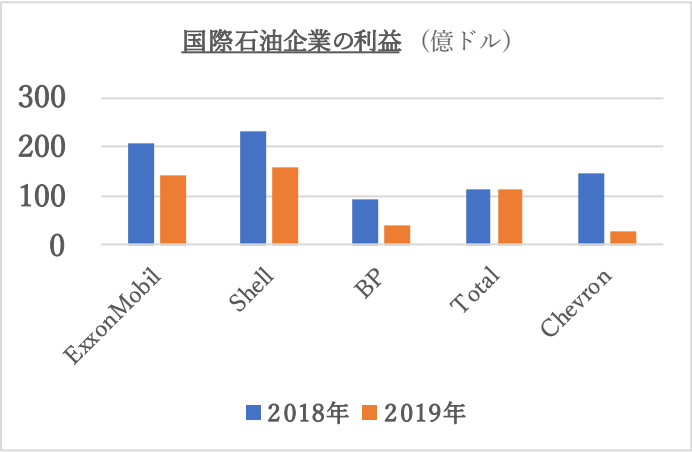
両年の各社売上高は Shell 3，966億ドル(2018年)→3，521億ドル（2019年、以下同じ）、BP2，988億ドル→2，784億ドル、ExxonMobil 2，902億ドル→2，649億ドル、Total 2，094億ドル→2，003億ドル、Chevron 1，664億ドル→1，465億ドルであった。

売上高減少の要因は上記に触れた通り原油価格がほぼ10%下落したためである。因みに天然ガスの場合は、米国 Henry Hub 引渡年間平均価格は百万 BTU 当たり2018年の3．13ドルから2019年は2．53ドルであり、20%下落している[2]。

（資産売却で上流部門の利益が激減した Chevron！）

2．損益

（1）総合損益



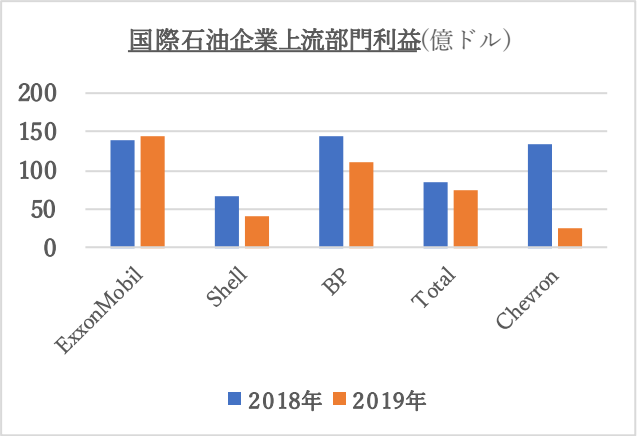
2019年の利益は各社とも前年を下回っている。Total のみ微減にとどまったものの、他の4社は大幅な減益であり、特に Chevron の利益は5分の1に激減している。Shell、ExxonMobil 及び Total の3社は100億ドルを超える利益を確保しているものの、Shell と ExxonMobil は前年度の3分の2の利益にとどまっている。

5社の中で2019年の利益が最も高かったのは Shell の158億ドルであるが、2018年の234億ドルに比較すると32%の減益である。ExxonMobil は Shell に次ぐ利益を上げているが、やはり前年に比較すると31%減少している(208億ドル→143億ドル)。この2社に対し Total は健全な決算であり、利益は前年の114億ドルから2019年は113億ドルとほとんど変化していない。

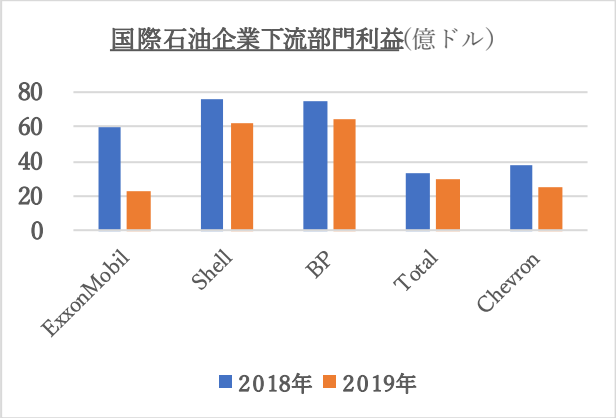
BP の利益は40億ドルであり、これは前年(94億ドル)の4割減である。Chevron さらに減少幅が大きく、2018年の148億ドルから5分の1の29億ドルになり、他の4社に比べ落ち込みが激しい。

(2)上流部門と下流部門の損益比較

各社の利益を上流部門(生産)と下流部門(精製)に分けてみると ExxonMobil が上流部門で前年をやや上回ったことを除き、各社は上流部門、下流部門のいずれも減益となっている。



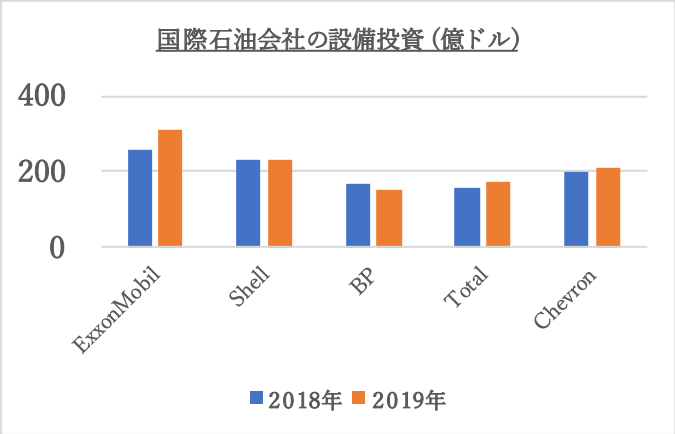
上流部門では、2018年は BP が146億ドルで最も多く、ついで ExxonMobil141億ドル、Chevron133億ドルであり、Total、Shell はそれぞれ85億ドル、68億ドルであった。これに対して2019年は ExxonMobil が144億ドルと前年をわずかながら上回る利益を確保したが、その他の4社はいずれも前年を下回った。即ち BP は146億ドル→112億ドル(23%減)であり、Total は85億ドル→75億ドル(12%減)となった。特に Chevron は前年の133億ドルから一挙に4分の1以下の26億ドルに激減し、5社の中では上流部門の利益が最も低い水準になった。同社の場合は先に述べたように、米国内のシェール鉱区を売却するなど上流部門を中心に資産の再編成を行ったためである。



次いで下流部門を見ると、2018年に比較すると全社の利益が減少している。但し各社によって減益幅は異なり、利益を最も大きく下げたのは ExxonMobil の▲61%(60億ドル→23億ドル)である。Chevron も2018年の38億ドルから2019年は25億ドルに35%減少している。その他 Shell、BP 及び Total の減益率は10%台にとどまっている。

(業績悪化だが設備投資は横ばいまたは増額!)

3. 設備投資



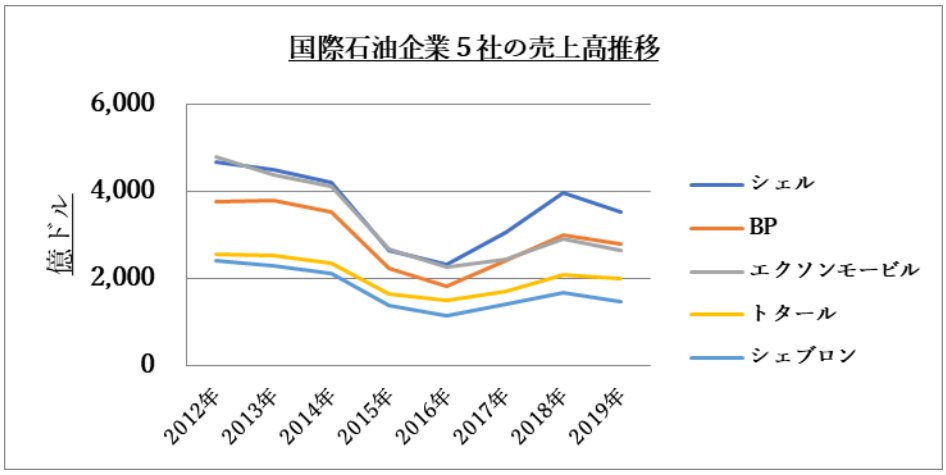
2018年と2019年の5社の設備投資は BP が前年を下回り、Shell は前年並み、その他3社は増額であった。特に ExxonMobil は259億ドルから311億ドルに増額している。5社の中では ExxonMobil が300億ドル台で他の4社を大きく上回っている。Shell の設備投資は前年と同じ230億ドル、Chevron は210億ドル(前年比4%増)とそれぞれ200億ドル台の投資額を行った。Total は156億ドル(2018年)→174億ドル(2019年、12%増)、BP は167億ドル(2018年)→154億ド

ル(2019年、8%減)であった。

Ⅳ. 8カ年(2012-2019年)業績推移の比較

ここでは2012年から2019年までの過去8年間の5社の業績の推移を比較検討する。因みに各社業績と密接な関係にある原油価格を見ると、Brent 原油は2012年から14年までの3年間は年間平均価格が100ドル前後であった。しかしその後2015年は一転して50ドル台に下落、2016年初めには30ドルを割るまでに落ち込んでいる。その後回復し2018年の年間平均価格は71ドルに上昇したものの、2019年は再び64ドルに下落している。5社の決算数値はこの価格変動に大きく左右されたと言えよう。

1. 売上高

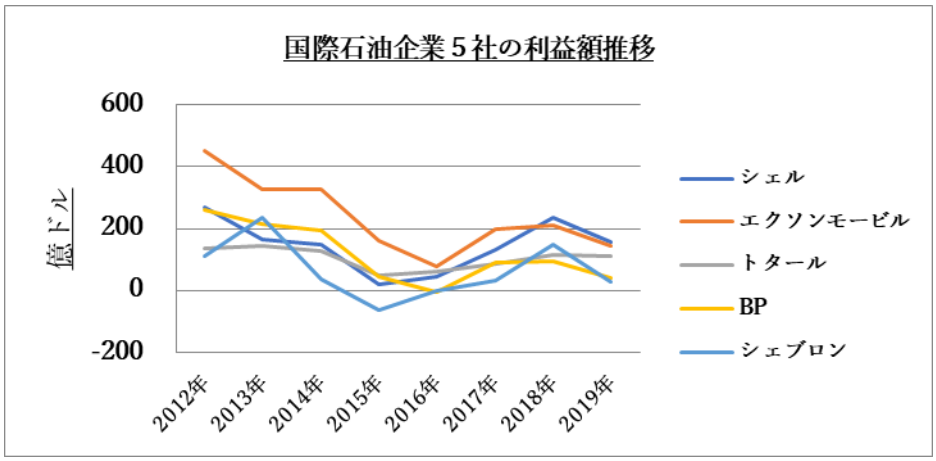


2012年の売上高トップはExxonMobilの4，807億ドルでありShellが4，672億ドルで第2位であった。売上高第3位は BP(3，758億ドル)で、Total と Chevron はそれぞれ2，570億ドル及び2，419億ドルであった。2013年は Shell の売上が ExxonMobil をわずかに上回ってトップを奪い、2016年まで両社は僅差で首位争いを続けた。しかし2017年以降は Shell の売上の伸びが大きく昨年まで売上高トップを続けている。一方、ExxonMobil は売り上げが停滞し、2018年には BP にも追い抜かれ、2019年も BP を下回り5社中の3位に甘んじている。

2016年までの BP の売上高は ExxonMobil、Shell の8割前後で3位にとどまっていた。しかし2019年の売上高は2，784億ドルとなり、ExxonMobil の2，649億ドルを上回っている。Total および Chevron はそれぞれ5位と6位であり、トップの5割前後の水準で推移している。

年毎に見ると2012年から2014年までは各社とも売上高は高い水準を維持し続けた。しかし2015－16年は原油価格が急落し、売上高はそれまでの5割ないし6割程度に急減した。その後2017年、2018年と回復したが、2019年は再び売上高は減少し、Total、Shell 及び BP は2012年の70%強にとどまっている。また Chevron は2012年の6割、ExxonMobil は55%程度である。

2. 利益

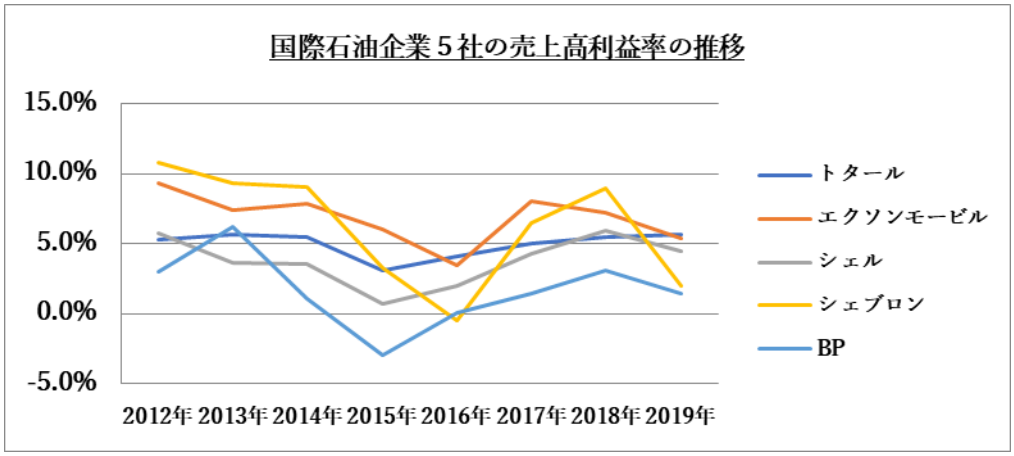


２012年から2019年までの5社の利益の推移を見ると、2012年は ExxonMobil が他の4社を大きく引き離して449億ドルの利益を計上、Shell 及び BP が200億ドル弱少ない260億ドルで並んでいる。Total の利益は136億ドルで ExxonMobil の3割にとどまり、5社の中で最も利益が少なかった Chevron は113億ドルであった。

２013年に Chevron が増益だったことを除き、5社社は2012年以降押しなべて減益傾向が止まらなかった。Shell、Chevron 及び Total 3社は2015年に底を打ったが、ExxonMobil と BP の業績回復はさらに遅れた。2016年の各社の利益は ExxonMobil78億ドル、Total62億ドル、Shell46億ドル、Chevron1億ドルであり、BP のみ5億ドルの欠損であったが、5社間の収益格差は2012年に比べ大幅に縮まっている。因みに ExxonMobil 及び Shell の利益は2012年の2割弱にとどまっている。

８年間の利益の推移を見ると Total は変動幅が小さく安定した利益を上げている。一方で Chevron は2013年に235億ドルの利益を計上した一方、2015年には65億ドルの損失を出すなど利益の変動幅が大きい。ExxonMobil と BP は2012年以降利益の長期低落傾向が止まらない。例えば ExxonMobil の過去8年間の利益の推移は449億ドル(2012年)→326億ドル(2013年)→325億ドル(2014年)→162億ドル(2015年)→78億ドル(2016年)→197億ドル(2017年)→208億ドル(2018年)→143億ドル(2019年)であり、2012年の利益の3分の1に低下している。

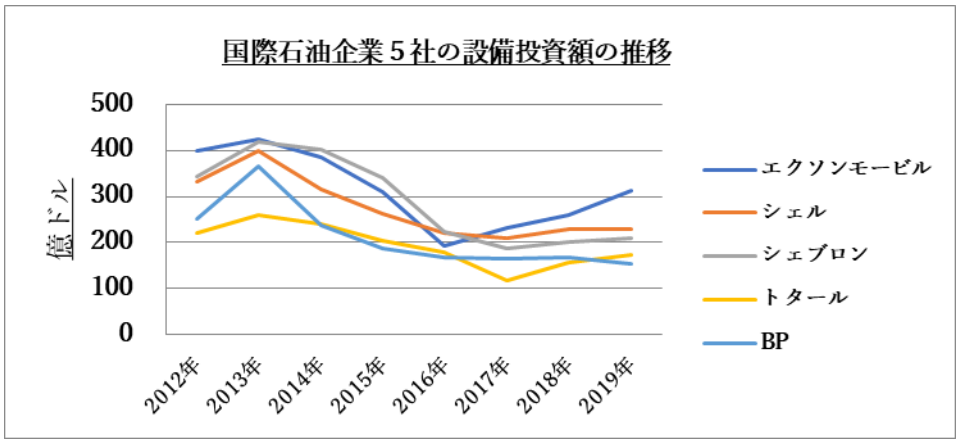
3. 売上高利益率



2012年の売上高利益率は、Chevron が10．8%と5社の中で唯一2桁台であった。これにつぐのが ExxonMobil の9．3%で Total と Shell が共に 5%台であった。Chevron はその後2014年まで利益率トップを続け毎年10%前後の高い利益率を達成している。ExxonMobil も7%以上の利益率を維持した。

しかし2015年から2016年にかけては各社とも利益率が急落、特に Chevron は2014年の9．1%から2015年には3．3%に下落、さらに2016年にはマイナス0．4%に転落している。BP は2014年から利益率が急落、同年は1．1%、さらに2015年にはマイナスの利益率（－2．9%）を記録した。2016年は各社によって明暗が分かれ ExxonMobil と Chevron は2年続けて利益率が下落した一方、その他の3社は利益率が回復している。そして2017年には全社で利益率が改善した。しかし2019年は一転して低下し、トップの Total5．6%のほか、ExxonMobil5．4%、Shell4．5%、Chevron 2%、BP1．4%であった。

4. 設備投資



2012年の設備投資額は ExxonMobil が398億ドルで最も多く、Chevron(342億ドル)、Shell（332億ドル）、BP(252億ドル)と続き Total は219億ドルで最も少なかった。翌2013年は各社とも増加したが、特に前年3位、4位であった Shell 及び BP の伸びが大きかった結果、トップ ExxonMobil(425億ドル)と4位 BP(366億ドル)の格差は縮小し、Total(259億ドル)のみが他の4社に比べ見劣りする水準であった。しかし同年をピークとして翌2014年から2016年まで3年連続して5社の設備投資は落ち込み、投資額は200億ドル前後にとどまった。

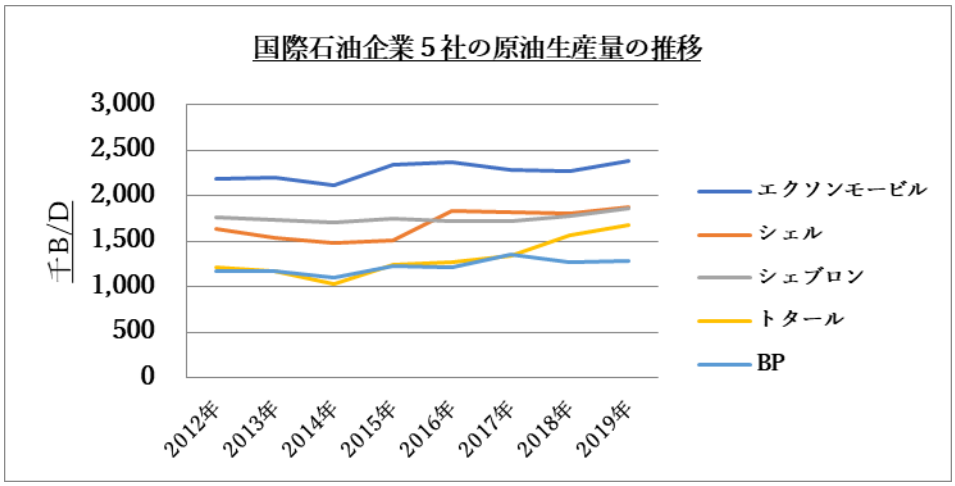
ExxonMobil は2016年を底に設備投資を増加したが、その他の4社の設備投資はほとんど増えず、2019年は ExxonMobil だけが300億ドルを超える投資を行ったが、同社に続くのは Shell の230億ドル、Chevron210億ドルとトップの ExxonMobil とはかなり大きな開きがある。Total 及び BP の投資額はそれぞれ174億ドル及び154億ドルにとどまっている。

5. 石油及び天然ガス生産量

(1)石油生産量

5社の2012年から2019年までの石油生産量の推移を見ると、8年間を通じて ExxonMobil は他の4社を大きく引き離している。同社の生産量は2，185千 B/D(12年) →2，202千 B/D(13年)

→2，111千 B/D(14年)→2，345千 B/D(15年)→2，365千 B/D(16年) →2，283千 B/D(17年) →2，266千 B/D(18年) →2，386千 B/D(19年)と5社の中で唯一2百万 B/D 以上を維持している。

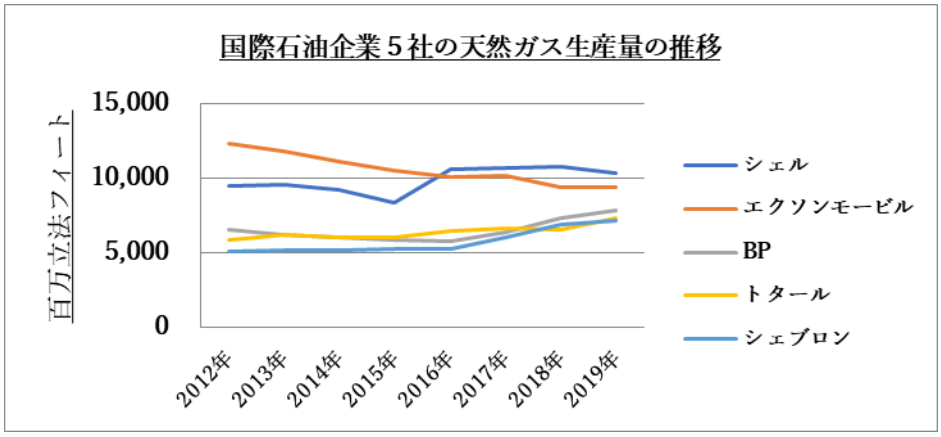


ExxonMobil 以外の2012年の生産量は Chevron (1，764千 B/D)、Shell (1，633千 B/D)、Total (1，220千 B/D)、BP (1，179千 B/D)の順であった。2012年から2014年まで5社はいずれも毎年生産量が減少し続けており、2014年の各社の生産量は ExxonMobil2，111千 B/D、Chevron1，709千 B/D、Shell1，484千 B/D、BP1，106千 B/D、Total1，034千 B/D であった。2015年以降は BP の生産量が停滞している以外、他の4社は漸増傾向にある。その中では特に2015年から2016年にかけての Shell が生産を大きく伸ばしており、また Total は2018年、2019年と2年連続で生産量が大幅に増加した。

産油量2位の Shell と同3位 Chevron は過去2年間ほぼ同程度の生産を続けており、これに対して4位 Total が2社を追いかける構図である。BP は生産量が停滞しており4社との格差が拡大している。

2012年の生産量を100とした場合、2019年の各社生産量は Total 137、Shell 115、BP 及び ExxonMobil 109、Chevron106であり、Total の増加幅が群を抜いている。

(2)天然ガス生産量



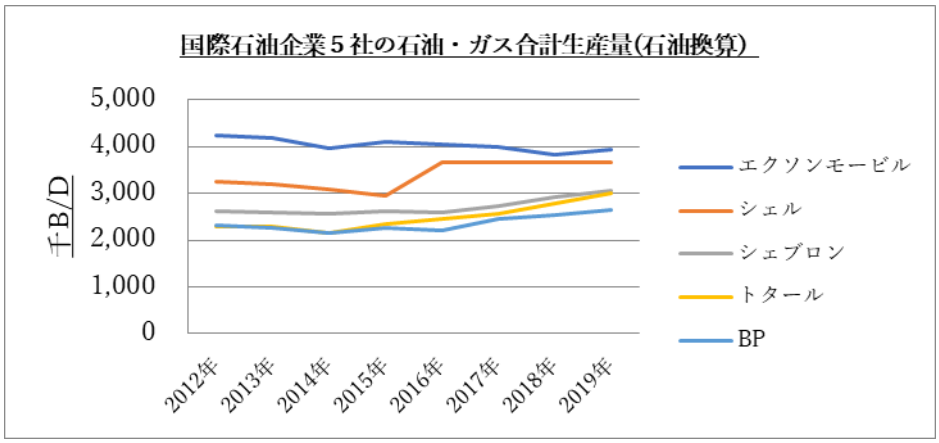
2012年から2019年までの天然ガスの生産量は ExxonMobil とその他4社で明暗が分かれてい

る。2012年の生産量は ExxonMobil が123億立法フィート/日（以下 cfd）で5社の中で唯一100億cfd を超えていた。これに続くのが Shell 94億 cfd、BP66億cfd、Total 59億cfd、Chevron51億cfdであった。

ExxxonMobil はその後8年間ほぼ毎年減少しており、2018年には100億cfdを割り2012年の4分の3にとどまっている。これに対して Shell は2016年に100億cfdを超えて ExxonMobil の生産量を上回り、2019年までの4年間は100億cfd台を維持している。

2012年に66億cfdであった BP の生産量は2016年には58億cfdまで減少したが、2017年に上昇に転じて2012年とほぼ同じ水準に戻り、2019年は78億cfdの天然ガスを生産している。Chevron と Total の生産量も着実に増加しており、2012年に比べ2019年の生産量は1．3倍～1．4倍に増えている。

（3）石油・天然ガス合計生産量（石油換算）



石油と天然ガスの合計生産量（石油換算）を見ると、2012年には ExxonMobil がトップの4，239千 B/D である。Shell は3，262千 B/D でトップの ExxonMobil と100万 B/D の差があった。これら2社に続くのが Chevron(2，610千 B/D)であり、4位と5位はそれぞれ BP（2，319千 B/D）及び Total（2，300千 B/D）であった。

2013年以降は ExxonMobil の生産量に減少の歯止めがかからず、2019年は3，952千 B/D となり、5社の中で唯一2012年の生産量を下回る水準にとどまっている。一方 Shell は2015年まで横ばいを続けた後、2016年に生産量が3，668千 B/D と大幅に上昇し218年は3，665千 B/D でありトップの ExxonMobil（3，952千 B/D）に近づいている。

2012年を100とした場合の2019年の各社の生産量は Total 131、Chevron 117、BP114、Shell112であるが ExxonMobil は93であり、同社のみが2012年を下回っている。

（完）

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田　高行
〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

2019 年第 4 四半期(10-12 月)及び通年(1-12 月)国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2019 年 10-12 月	67,173	85,066	71,109	49,280	36,350
	前年同期	71,895	104,626	75,677	52,495	42,352
	増減(%)	-6.6%	-18.7%	-6.0%	-6.1%	-14.2%
	2019 年 1-12 月	264,938	352,107	278,397	200,316	146,516
	前年 1-12 月	290,212	396,556	298,756	209,363	166,339
	増減(%)	-8.7%	-11.2%	-6.8%	-4.3%	-11.9%
利益(百万ドル)(*)	2019 年 10-12 月	5,690	965	19	2,600	▲ 6,610
	前年同期	6,000	5,590	766	1,132	3,730
	増減(%)	-5.2%	-82.7%	-97.5%	129.7%	-277.2%
	2019 年 1-12 月	14,340	15,843	4,026	11,267	2,924
	前年 1-12 月	20,840	23,352	9,383	11,446	14,824
	増減(%)	-31.2%	-32.2%	-57.1%	-1.6%	-80.3%
売上高利益率(%)	2019 年 10-12 月	8.5%	1.1%	0.0%	5.3%	-18.2%
	前年同期	8.3%	5.3%	1.0%	2.2%	8.8%
	2019 年 1-12 月	5.4%	4.5%	1.4%	5.6%	2.0%
	前年 1-12 月	7.2%	5.9%	3.1%	5.5%	8.9%
上流部門利益(百万ドル)(*)	2019 年 10-12 月	6,137	▲ 787	2,678	2,031	▲ 6,734
	前年同期	3,313	1,601	3,886	1,976	3,290
	増減(%)	85.2%	-149.2%	-31.1%	2.8%	-304.7%
	2019 年 1-12 月	14,442	4,195	11,158	7,509	2,576
	前年 1-12 月	14,079	6,798	14,550	8,547	13,316
	増減(%)	2.6%	-38.3%	-23.3%	-12.1%	-80.7%
下流部門利益(百万ドル)(*)	2019 年 10-12 月	898	1,037	1,438	580	672
	前年同期	2,704	2,918	2,169	900	859
	増減(%)	-66.8%	-64.5%	-33.7%	-35.6%	-21.8%
	2019 年 1-12 月	2,323	6,277	6,419	3,003	2,481
	前年 1-12 月	6,010	7,601	7,561	3,379	3,798
	増減(%)	-61.3%	-17.4%	-15.1%	-11.1%	-34.7%
設備投資(百万ドル)	2019 年 10-12 月	8,460	6,707	3,936	4,211	6,016
	前年同期	7,843	7,147	5,962	2,708	5,761
	増減(%)	7.9%	-6.2%	-34.0%	55.5%	4.4%
	2019 年 1-12 月	31,148	22,971	15,418	17,449	20,994
	前年 1-12 月	25,923	23,011	16,707	15,568	20,106

	増減(%)	20.2%	−0.2%	−7.7%	12.1%	4.4%
原油生産量 (1,000B/D)	2019 年 10−12 月	2,436	1,934	1,328	1,714	1,893
	前年同期	2,348	1,885	1,321	1,589	1,862
	増減(%)	3.7%	2.6%	0.5%	7.9%	1.7%
	2019 年 1−12 月	2,386	1,876	1,288	1,672	1,865
	前年 1−12 月	2,266	1,803	1,268	1,566	1,782
	増減(%)	5.3%	4.0%	1.6%	6.8%	4.7%
天然ガス生産量 (100 万 cfd)	2019 年 10−12 月	9,495	10,605	7,945	7,263	7,110
	前年同期	9,974	11,035	7,574	6,994	7,328
	増減(%)	−4.8%	−3.9%	4.9%	3.8%	−3.0%
	2019 年 1−12 月	9,394	10,377	7,823	7,364	7,157
	前年 1−12 月	9,405	10,805	7,374	6,599	6,889
	増減(%)	−0.1%	−4.0%	6.1%	11.6%	3.9%
原油・ガス生産量 (石油換算 1,000B/D)	2019 年 10−12 月	4,018	3,763	2,698	3,113	3,078
	前年同期	4,010	3,788	2,627	2,876	3,083
	増減(%)	0.2%	−0.7%	2.7%	8.2%	−0.2%
	2019 年 1−12 月	3,952	3,665	2,637	3,014	3,058
	前年 1−12 月	3,833	3,666	2,539	2,775	2,930
	増減(%)	3.1%	0.0%	3.9%	8.6%	4.4%

＊総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。

---

[1] Shell 決算資料より
https://www.shell.com/investors/financial-reporting/quarterly-results/2019/q4-2019/_jcr_content/par/toptasks_1119141760.stream/1580316068719/fb98da9d3781f1c74a789c3c1420fe9ede703dd7/q4-2019-suppl-finandopdisclosure-document.pdf

[2] Shell 決算付属資料参照。
https://www.shell.com/investors/financial-reporting/quarterly-results/2019/q4-2019/_jcr_content/par/toptasks_1119141760.stream/1580316068719/fb98da9d3781f1c74a789c3c1420fe9ede703dd7/q4-2019-suppl-finandopdisclosure-document.pdf